

日本における学歴と性行動

Educational status and sexual behavior in Japan

小西祥子¹、森木美恵²、仮屋ふみ子¹、赤川学¹

1 東京大学、2 国際基督教大学

Shoko Konishi, Yoshie Moriki, Fumiko Kariya, Manabu Akagawa

1 The University of Tokyo, 2 International Christian University

moe@humeco.m.u-tokyo.ac.jp (Konishi)

緒言

日本において婚外出生は稀であるが、婚外（婚前）妊娠は珍しくない。2019年の全出生数のうち非嫡出子は2.33%にすぎない[1]。一方で2019年の嫡出第1子出生のうち18.4%は妊娠期間よりも結婚期間が短く、その多くが婚前妊娠による出生と考えられる[2]。授かり婚やできちゃった婚ともいわれる婚前妊娠をともなう結婚は、結婚全体のうち無視できない割合を占める。1990-2002年の結婚コホートのうち、授かり婚が占める割合は中卒女性で38%、高卒女性で22%、短大・専門学校卒女性で14%、大卒女性で8%と推定された[3]。よって未婚者の性行動および妊娠の状況は結婚の動向に少なからず影響を及ぼしていると考えられる。

学歴と結婚についてはわが国における豊富な研究の蓄積がある[3-8]。一方、学歴と性行動については知見が限られている。報告者らが2019年に4,000名の男性を対象として実施した調査では、大卒以上と比較して大卒未満の未婚男性でセックスストレスが多く、カジュアルセックス（婚約者や恋人以外とのセックス）が多い傾向がみられた[9]。本報告では同じデータセットを用いた上で特に未婚者に着目し、学歴による性行動のちがいについて分析することを目的とした。

方法

技術・環境・妊孕力に関する学際研究（Interdisciplinary Investigation on the Technology, the Environment, and Fertility, IITEF）プロジェクトのサブテーマの1つとして、「技術革新と性行動の多様性にかんする研究」を東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会の承認を得て実施した。このサブテーマは、過去20年間の性行動の経時的変化について調査した「歴史版」と、過去1年間の性行動の詳細について調査した「横断版」の2つのインターネット調査からなる。本報告の分析で使用した横断版調査は、日本国内に居住する20-54歳の男性4,000名を対象として2020年9月に実施した。対象者は楽天インサイトの登録モニターから、7つの年齢階級および8つの居住地域ごとの人数が2015年国勢調査の日本人人口の構成比と等しくなるようにリクルートし、電子メールでオンライン質問票を配布した。年齢、学歴、収入、交際相手の有無のほか、過去1ヶ月間および2019年の1年間のセックスの有無を相手別に聴取した。相手は婚約者、恋人、友達以

上恋人未満の人、セックスフレンド、友人／知人、行きずりの人、性風俗の人、その他の8種類とした。婚約者と恋人はステディ、それ以外の相手はカジュアルと分類した。またセックスした際の避妊の状況を尋ねた。過去1ヶ月および過去1年間にとった性行動について、回答者を大卒以上と大卒未満に分けたうえで割合を計算した。

結果と考察

質問票に回答した4,000名のうち、未婚男性1,692名を分析の対象とした。大卒以上986名、大卒未満が706名、年収(100万円)の中央値はそれぞれ2.5と3.5であった。未婚者のうち過去1ヶ月間にセックスをしたもの(大卒以上で324名、大卒未満で168名)を対象とした結果は次の通りであった。ステディな相手とのセックスがあったのは大卒以上で78.1%なのに対し大卒未満では60.7%にとどまった。一方カジュアルセックスをしたと回答したものは大卒以上で29.9%だったのに対し大卒未満では44.6%に達した。ステディな相手と避妊なしでセックスしたものの割合は学歴によってほとんど違いがなかった(大卒以上8.6%、大卒未満9.5%)。これに対して、カジュアルな相手との避妊なしセックスは大卒以上では4.6%であったが大卒未満では11.3%であった。また過去1年間にセックスをもったもの(大卒以上492名、大卒未満285名)を対象とした分析では、ステディな相手とセックスした割合は大卒以上67.3%で大卒未満の55.8%よりわずかに高かった。一方カジュアルな相手とのセックスをもった割合は大卒以上で51.6%なのに対し大卒未満で55.4%とほとんど差がなかった。過去1ヶ月の性行動にみられた学歴によるちがいが、COVID-19の状況に対する反応のちがいを反映しているのか、あるいはそれとは無関係な学歴による行動の違いを表しているのかは現時点では明らかでない。

引用文献

1. 国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集2021年版.
 2. 厚生労働省 令和3年度 出生に関する統計の概況
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/tokusyu/syussyo07/index.html>
(2022/3/18 アクセス).
 3. Raymo, J.M.; Iwasawa, M. Bridal pregnancy and spouse pairing patterns in Japan. *J. Marriage Fam.* **2008**, *70*, 847-860.
 4. 「結婚の壁—非婚・晩婚の構造」佐藤博樹, 永井暁子, 三輪哲(編), 勁草書房, 東京, 2010.
 5. 津谷典子 なぜわが国の人口は減少するのか—女性・少子化・未婚化. 「人口減少と日本経済—労働・年金・医療制度のゆくえ」津谷典子, 樋口美雄(編), 日本経済新聞出版社, 東京, 2009, pp. 3-52.
 6. 打越文弥 未婚化時代における階層結合: 夫婦の学歴パターンのコーホート比較分析. *理論と方法* **2018**, *33*, 15-31.
 7. 白波瀬佐和子 階級・階層、結婚とジェンダー —結婚に至る階層結合パターン—. *理論と方法* **1999**, *14*, 5-18.
 8. Fukuda, S.; Yoda, S.; Mogi, R. Educational assortative mating in Japan: Evidence from the 1980–2010 census. *人口学研究* **2021**, *57*, 1-20.
 9. Konishi, S.; Moriki, Y.; Kariya, F.; Akagawa, M. Casual sex and sexless relationships in Japan: A cross-sectional study. *Sexes* (in press)
- 本研究は JSPS 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業グローバル展開プログラム (JSPS00119217822) の委託を受けたものです。